

学校教育目標	認め合い 学び合い 高め合う子				
	【知】自ら進んで学び、粘り強く取り組み、学びを深める子を育てます。 【徳】互いのよさを認め合い、他者を思いやり、自他を大切にすることを育てます。 【体】自他の生命を大切にし、心身ともにたくましく生きる子を育てます。 【公】まちを愛する心を持ち、地域や社会のために行動する子を育てます。 【開】多様な考えを尊重し、広い視野を持ち、ともに生きていく子を育てます。				
学校概要	創立 46 周年	学校長 石原 加代子	副校長 武石 博行	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 6
	児童生徒数:	360 人	主な関係校: 浜小学校、汐見台小学校、汐見台中学校、岡村中学校、藤の木中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	汐見台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
< コミュニケーション力 > < 自分づくりに関する力 > < 問題発見・解決能力 >	汐見台中 汐見台小 浜小 山王台小	自らの可能性を追求し、主体的に考え行動する子ども 互いの心を大切にし、学び合い、高め合う子ども ・「豊かな心の育成」をブロック共通テーマとして設定し、年2回の小中合同授業研究会を通してテーマに迫っていく。 ・道徳の時間を核として全教育活動を通して「豊かな心」を育てていく。 ・アクティブラーニングを取り入れた授業を通して、主体的に考え行動する子どもを育てる。

中期取組目標	子ども一人ひとりの思いを大切に、安心・安全で笑顔あふれる学校づくりを目指します。 ・学ぶ楽しさを実感できる対話的な授業づくりを推進し、基礎学力と伝え合う力の向上を図ります。 ・豊かなかかわりを通して自尊感情を高め、互いのよさを認め合い、自他を大切にすることを育成します。 ・自分の生活を見つめ、自他の生命を大切に、健やかな心と体をつくる力を育てます。 ・子どもの思いを生かしたまちとのかかわりを通して、まちを愛し、地域や社会のために行動する力を育てます。 ・自己研鑽に励み、子どもの思いに寄り添う児童理解力や指導力を高めるとともに、組織力の強化に努めます。
--------	---

重点取組分野	具体的な取組
知 生きてはたらく知	①目的意識・相手意識をもてるように自ら課題を選択できるようにし、学ぶ楽しさを実感できる対話的な授業づくりを推進する。②ICTを効果的に活用し、子どもが学びを選択しながら学習して基礎学力を高めるとともに、自他の考えを比較しながら学び合う場を設定し、ともに高め合う姿勢を養う。③言語活動の充実を図り、相手や目的を意識して言葉を選択しながらコミュニケーション力を育成する。④地域で関わる人や地域の材を活かし、切実感のある課題を設定し、自ら粘り強く問題解決学習に取り組む姿勢を養う。
担当 重点研究推進委員会	
徳 豊かな心	①YPデータや教師間の見取りを基に、計画的に横浜プログラムを実施したり、学年に応じて様々な視点の外部講師による授業を行ったりして人権意識を高める。②道徳の授業や人権教育を通して、相手を思いやり互いを大切にすることを育てる。③あいさつ運動、子どもの思いを生かした児童会活動、たてわりタイムなどの異学年交流により、繋がりを深め、人間関係と自己有用感を高める。④異文化体験を通して文化の違いを認め合い、多文化共生の心情を養う。
担当 人権教育・道徳部	
体 健やかな体	①子ども一人ひとりが健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて自分の生活を見つめ、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培う。②家庭と連携して「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣を身に付ける。③子ども主体で計画された運動集会や、年間を通して縄跳びを中心に一校一実践運動を行い、日常的に運動に取り組む態度を養う。④学校全体で定期的にバランスイーターワークに取り組み、食育に関する課題の共通理解を図り、給食指導に生かしたり、子どもの食に関する意識を高めたりする。
担当 保健・食育・体育	
公開 自分づくり教育	①子どもたちが積極的に地域と繋がることを大切にして、地域の人たちとの交流や材を活用して体験的に学ぶ場を設け、自分の思いを表現できるようにする。②地域のために自分ができることを考え、地域の中で活動したり、行事に参加したりしようとする姿勢を養う。③キャリアパスポートに書かれた振り返りや目標に対して適切な支援や価値付けを行い、子どもたちの意欲を高める。④重点研究を核として、自分の思いや願いを発信するための語彙力やコミュニケーション力を高める。
担当 学習指導・キャリア教育	
いじめへの対応	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用して、社会性や人権意識を高めるとともに、子ども会議や児童会活動などで児童自身が主体的に考える未然防止への取組を年間を通して進める。②いじめ防止研修による共通認識のもと、毎日の健康観察や年2回のアンケート等により些細な変化を見逃さない体制をつくり、迅速な情報共有・組織的な対応により、早期発見・早期解決に努める。③月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。④児童の多様性を理解し、児童の心に耳を傾け、寄り添いながら、教職員間で様々な情報を引き継ぎ、安心して過ごせる教育環境を醸成していく。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)	①市や区の研修や計画的な校内研修に主体的に参加し、自己研鑽に励み、児童理解力・指導力・授業力の向上に努める。②5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、高めた力を明確にして、月に1回程度の研修により、教師力の向上と同僚性を高める。③危機管理研修、学校スタンダードの共通理解を一層明確にし、学校全体で共通した指導ができるように努める。④全市に導入された新しいグループウェアを、教育活動に積極的に活用し、教育の質を持続的に高めることへ結び付ける。
担当 教務部・メンターチーム	
地域学校協働活動	①学校運営協議会を核として、地域と学校の共通ビジョンを整え、協働して子どもを育む体制を強化する。②地域学校協働本部(ヒルトップサポーターズ)と連携を深め、学習支援と安全確保を進め、地域に開かれた学校づくりを推進する。③地域学校協働本部と連携し、スタートカリキュラムを充実させ、新入生の心の安定を図る。④子どもの思いを尊重し、学援隊や地域学校協働本部の方々へ感謝を伝える場を設けることで、地域との繋がりをより深める。
担当 教務部・地域連携	
安全管理	①年度初めの研修を継続し、学校事故に関する共通理解と風化させない体制づくり、危機管理意識の向上を図るとともに、計画的な研修により、危機管理対応力を高める。②災害時を想定して避難訓練の綿密な実施計画の作成・内容の共有を図り、実施後には反省を次の訓練に生かせるように運営する。③関係機関や外部講師と連携して訓練を実施し、災害や危険に対する児童の意識を高めるとともに、マニュアルの実効性の検証を行う。④学校施設などの安全点検を定期的に行い、迅速に修繕を行い、安全な教育環境を保持する。
担当 安全・環境部	
特別支援教育	①特別支援教育研修により、適切な指導と支援の理解を深め、教職員がより理解者となり、学びや環境のユニバーサルデザイン化を推進する。②特性を理由に授業に参加できない状況がないか常に教育活動を見直し、子どもの思いに寄り添いながら、誰一人取り残すことなく授業に参加できるようにする。③保護者との合意形成を図り、個別の教育支援計画・指導計画を活用して見通しをもった適切な支援を行うようにする。④登校支援や学習支援を行う特別支援教室で、適切な指導や支援を計画的に実施していく。
担当 特別支援教育委員会	
児童指導	①児童の主体性を育むために、児童の思いや願いを傾聴し、理解や納得を得て進んで行動できるように指導する。②職員会議や特別支援校内委員会において、児童情報の共通理解と具体的な支援の検討を行い、組織的に対応する。③年2回の「Y-Pアセスメント」から学級風土や児童の状況を把握し、支援検討会で、具体的な支援策や指導プログラムを実施する。④不登校傾向児童の思いに寄り添って学習の支援の在り方を探り、特別支援教室やICTを活用しながら学びが継続できるようにする。
担当 児童指導部	